

平成27年1月

松下倫子 学位論文審査要旨

主査 梅北善久

副主査 鱒岡直人

同 北村幸郷

主論文

A new in situ hybridization and immunohistochemistry with a novel antibody to detect *small T-antigen* expressions of Merkel cell polyomavirus (MCPyV)

(メルケル細胞ポリオーマウイルスのsmall T抗原を検出する新規in situ ハイブリダイゼーション法及び新しい抗体による免疫染色法)

(著者：松下倫子、野中大輔、岩崎健、桑本聡史、村上一郎、加藤雅子、長田佳子、北村幸郷、林一彦)

平成26年 DIAGNOSTIC PATHOLOGY DOI:10.1186/1746-1596-9-65 8 pages

参考論文

1. Detection of Merkel cell polyomavirus in the human tissues from 41 Japanese autopsy cases using polymerase chain reaction

(日本人剖検41症例を用いたPCRによるメルケル細胞ポリオーマウイルスの検出)

(著者：松下倫子、桑本聡史、岩崎健、森（檜垣）裕美、八島正司、加藤雅子、村上一郎、堀江靖、北村幸郷、林一彦)

平成25年 Intervirology 56巻 1頁～5頁

2. Merkel cell polyomavirus (MCPyV) strains in Japanese merkel cell carcinomas (MCC) are distinct from Caucasian type MCPyVs: genetic variability and phylogeny of MCPyV genomes obtained from Japanese MCPyV-infected MCCs

(日本人のメルケル細胞癌由来のメルケル細胞ポリオーマウイルス(MCPyV)株は白色人種のMCPyV株とは異なる：日本人メルケル細胞癌から検出されるMCPyV遺伝子の多様性と系統樹)

(著者：松下倫子、岩崎健、桑本聡史、加藤雅子、長田佳子、村上一郎、北村幸郷、林一彦)

平成26年 Virus Genes 48巻 233頁～242頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はメルケル細胞癌（MCC）に関連するメルケル細胞ポリオーマウイルス（MCPyV）検出の精度向上を目的に、MCPyV *ST*抗原（*ST*） mRNAを検出する新規ISH法と新しい抗*ST*抗体（ST-1）による免疫染色法（IHC）を開発して、MCPyV陽性と陰性の各MCC群16例に応用し、これらの感度と特異度を従来の抗MCPyV LT抗体によるIHCと比較したものである。その結果、ST-1-IHCの感度（0.69）は従来のより劣るものの、*ST* mRNA-ISHの感度は同等（0.94）であった。一方、特異度は、*ST* mRNA-ISHとST-1-IHCが共に1.0と従来法より優れていた。

本論文の内容は、*ST* 遺伝子発現を検出する新規のISH法及びIHC法を従来のIHC法と併用することで、予後の良いMCPyV陽性MCC症例をより正確に同定できることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。